

口絵 3：東京地学協会第11回海外巡検「ニュージーランドのグリーンでクリーンな自然と社会をより深く知る旅」

Pictorial 3：Geological Field Trip to New Zealand in February 2008

ニュージーランドの北島および南島は中央構造線に類似の構造線が縦断し、地球科学的にも大変重要な場所である。東京地学協会第11回海外巡検の際に訪れたニュージーランドのいくつかの場所を紹介する。この巡検は「ニュージーランドのグリーンでクリーンな自然と社会をより深く知る旅」で、全行程 2900 km に及ぶ大旅行であった。観察地点の位置はルートマップ (p.678) を参照。



図 1 スコリア丘である、マウント・イーデン（標高 196 m）の頂上にある噴火口跡。向こうに見えるのはオークランド市街。



図 2 クイラウ公園の泥温泉。このような小さな泥の溜まりがいくつか集まっている。蒸気を出しているがあまり活動的ではない。



図 3 ワイラケイ地熱発電所。近くの井戸からパイプで蒸気・熱水が運ばれている。水冷式でクーリングタワーが見られない。



図 4 テカボ湖。水河湖で、エメラルドグリーンの水の色が特徴的である。周りは水堆石で囲まれている。



図 5 マウント・クック。ニュージーランドの代表的な山で、最高峰である (3754 m)。多くの水河を持つ山容は厳しい。



図 6 オアマル海岸。左下に見事な枕状溶岩があり、右側にある、化石を含む始新世層を挟んでいる。上はレス層で覆われている。



図 7 モエラキ・ボールダー。暁新世の、直径数 m に及ぶジュールが地層から洗い出されて、海岸に転がって奇観をなしている。



図 8 ネビス・ブラフの片岩類観察。ここの片岩類は日本の三波川変成岩とそっくり。アルカリ岩の岩脈も見られる。



図 9 ミルフォード・サウンド。この国を代表するフィヨルドで、有名な観光地。船でフィヨルドの地形をよく見ることができる。



図 10 ミルフォード・サウンドの滝。氷河から流れ出る水が滝となってフィヨルド壁を流れ落ちる。雨のため、水量が多い。



図 11 ハンター近くのアルパイン・フォールト。活断層で、北の方では地形的な食い違いが見られるが、ここでは逆断層。上がミロナイトで、下が岩錐。



図 12 フランツ・ジョセフ氷河。年々後退していると言われている。流れ出る水はいわゆる氷河ミルクで、氷塊を含んでいる。